令和７年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　松ヶ江　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、３年生を対象として、令和７年４月１７日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（４月１４日から４月１７日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問調査

生徒質問調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

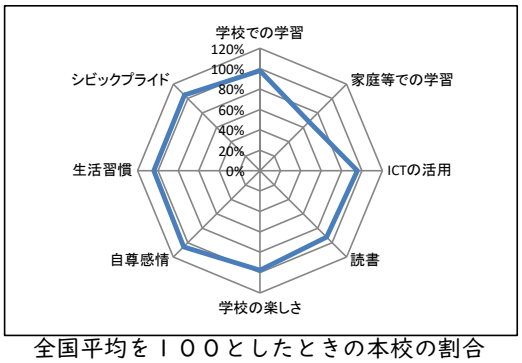
⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	一次関数について、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いていると考えられるが、 問題解決の過程を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題の設定や、情報を収集してまとめを行う学習活動は身に付いているが、難易度の高い問題を解くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	生物１から生物４までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題	
	努力が必要な問題	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を１００としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
・「自分には、よいところがあると思いますか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」との問いに対して全国平均を上回る95.6%の生徒が肯定的な回答をしている。 ・「授業中のPC・タブレットなどのICT機器利用」「ICT機器で文章を作成する」「情報を収集する（検索する、調べるなど）」「情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）」に関しては全てで全国平均を上回っている。 ・家庭で「１時間以上勉強をしている生徒」「ICTを利用している生徒」「読書をしている生徒」が全国平均を下回っている。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

基礎的な知識、技能の習得に向けて、ICTを使った効果的な朝自習や家庭学習を習慣化させるよう取組んでいく。また、活用方法や学習の行い方などを生徒に具体的に示すことで、生徒の自主的な活動を支援していく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習を行う習慣を身に付けるために宿題や課題の内容や方法を工夫し継続して取り組む。特に、AIドリルアプリを活用し家庭学習の習慣を定着させていく。